

1 研究テーマについて

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通して～

コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力が今まで以上に重要なものとなっている。

昨年度の小学校部会では授業研究会で「話すこと・聞くこと」の教材を取り上げ、言語活動の充実を図るべく研究を進めてきた。話し合い活動において、“思考力・判断力・表現力”をどのように育成するか考え、多数決で解決するのではなく、主体的に話し合えるようにワークシートや司会シートなどを活用して話し合いを進めることができた。

今年度も昨年度と同じ研究テーマのもと、研究を深めている。言語活動を通して、どのような学習方法が“思考力・判断力・表現力”を育み、深めていくのか研究を進めている。

2 研究の経過・予定

日程	研究内容
5/8	組織作り，研究テーマの決定
5/22	年間計画，授業者などの決定，研究授業について
6/12	研究授業について
8/9	夏季学習会（山梨南中学校・倉田憲一教頭先生「教科書改訂と新学習指導要領」） 小中合同授業案検討会
8/29	夏季統一授業研究会（小学校実践） 経験したことを報告したり，それらを聞いて感想を述べたりする 第1学年 話すこと・聞くこと「なつやすみのことをはなそう」
9/18	授業研究後の様子について 実践発表・意見交換
11/27	実践発表・意見交換
1/15	小中合同授業案検討（中学校との合同学習会）
2/5	統一授業研究会（中学校実践）
2/12	研究のまとめ

3 成果と課題

夏休みの思い出は低学年の子どもたちにとって「話したい」「聞いてもらいたい」話題である。しかし「どう話したらいいのかわからない」で困っている子どもたちもいる。その子どもたちにどんな手立てをしたら話しやすくなるのか、教師のサポートが大切である。おたよりを通して家庭の協力を得たり、情報機器を活用したりすることで理解の助けになり有効であった。また発表する全文を書いて練習してからの発表であったが、話し方を学ぶ初期段階の1年生にとっては必要な取り組みであり、そのことによってメモも見ずに自信をもって発表する姿が見られた。

一方、聞き取りカードをどのように活用していくのかという課題が残った。低学年の児童が友達を正しく評価することに難しさがあった。自己評価や他者評価をどのように取り入れていくのか、課題となったことを踏まえて今後も授業実践に取り組んでいく必要がある。

実践交流などを通して様々な学習方法を交流し、実態を踏まえた工夫をしながらこれからも研究に取り組んでいきたい。

4 共同研究者

指導・助言	齊藤 昌志 (笛川小)	岡村 太郎 (八幡小)		
部長	田邊 珠紀 (東雲小)	副部長	菱澤 里美 (東雲小)	
部員	松岡 めぐみ (山梨小)	武井 敏江 (笛川小)	中根 絵里 (塩山北小)	
	岡村 理恵 (奥野田小)	向山 紀子 (奥野田小)	遠藤 香織 (井尻小)	
	前田 文 (勝沼小)	青木可奈子 (祝小)	村田奈緒美 (東雲小)	

第1学年 国語科「話すこと・聞くこと」学習指導案

授業者 遠藤 香織

経験したことを報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする

第1学年 話すこと・聞くこと (ア・イ・エ)

言語活動例Aア

1. 単元の見積

- (1) 夏休みに経験したことを進んで話したり、聞いたりしようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 経験の中からみんなに話したいことを選び、話の順序を考えて、丁寧な言葉を使って話すことができる。【話・聞(1)ア・イ】
- (3) 話の大事なことを落とさないように興味をもって聞くことができる。【話・聞(1)エ】
- (4) 「です」「ます」を用いて丁寧な言葉で話すことができる。【伝国(1)イ(キ)】

2 教材名

「なつやすみの ことを はなそう」(光村図書1年上)

3. 児童の実態

本学級は男子6名、女子5名の計11名の学級である。7つの保育園から入学してきているため、井尻小学校に1人だけで入学してきた児童も少なくない。しかし、どの児童も学校生活にすぐに馴染み、前向きに生活している。また、新しい友達との関わりも増えてきてはいるが、まだ自分の好きなことをそれぞれがしているだけで、集団としてまとまりはない。

授業中は、意欲的に取り組む児童が多い中、座っているのが苦手ですぐに姿勢が崩れてしまう児童や自分のやりたいように好き勝手に取り組んでしまう児童もいる。動きのある活動も取り入れながら、できるだけ集中できる時間を増やしたり、みんなと一緒に活動するよさを感じたりできるような声かけや学習活動を行っている。

「話すこと」については、みんなの前で恥ずかしがらずに楽しく話せる児童がいる一方、苦手意識を持っている児童も少なからずいる。これまでに、自己紹介ができずに黙ったままだったり、泣いてしまったりすることもあった。1学期の単元「おもいだしてはなそう」では、「何を話しているのかわからない」、「緊張する」などの理由からすぐに話せない児童もいた。そこで、お誕生会やお楽しみ会などを実施した際には、全員がみんなの前で話す機会を作ることで場に慣れるようにした。また、自分の考えなどを話す際には、まずペアやグループなどで話してから全体で話すことで緊張感が減ってきたようである。また、「聞くこと」については、聞いた内容に関わった質問を言える児童が多かったため、さらに感想についても、自分の経験と照らし合わせた発言ができるようになる様、指導を続けている。

今回の学習では、相手に伝えるにはどうしたらいいのか考えて話すこと、話の内容に合う感想を言ったり、質問したりする体験を十分にさせて「話す・聞く」力の育成につなげたい。

4. 指導の内容と言語事項、教材のかかわり

(1) 研究テーマとのかかわり

本研究会のテーマは、「思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導～言語活動の充実を通して

～」である。新学習指導要領では、児童・生徒に「生きる力」をはぐくむこと、つまり、基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得と、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成が、各教科で目標とされている。そして、その基盤となるのが、「言葉の力」であり、各教科での言語活動を充実させることとともに、国語がその育成の中核を担うと示された。本単元に関わる言語活動は、「ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動」である。これを受けて、今回の授業では、夏休みの思い出の中から一番伝えたいことを選び、それを順序に気をつけて構成し、みんなの前で発表するという活動と、それを興味をもって聞き、質問したり、感想を言ったりする活動を行いたいと考える。しかし、このような言語活動は目的を達成するための手段であるので、これらの活動を通して、授業のねらいを達成し、国語科の中での思考力、判断力、表現力の育成を目指していきたいと考える。

また、新学習指導要領解説国語編には、「思考力、判断力、表現力等の」内容として、「話すこと・聞くこと」では、次のような指導事項が示されている。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○話題の設定、情報の収集、内容の検討○構成の検討、考えの形成（話すこと）○表現、共有（話すこと）○構造の内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）○話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと） |
|--|

「話題の設定、情報の収集、内容の検討」については、初めての夏休みを終えたばかりの子どもたちには、先生や友達に一番知らせたい話題であるため、話す題材として適しているが、いざ発表となると何を発表していいのか迷ってしまう。そこで、夏休みの宿題の絵日記2枚のうちのどちらかを発表することを知らせておいた。また、保護者にも、夏休み前のお便りで同様のことを知らせておいたので、児童が一番話しやすい内容に絞られてくると思われる。

「構成の検討、考えの形成（話すこと）」については、話の構成を考える際に「事柄の順序」に気をつけることが低学年では示されている。よって、絵日記を見ながら、簡単な発表メモを事前に作成し、話したいことの順序を意識して、まとめるようにしたい。その際、話すことの全部をメモに書いてしまうのではなく、大筋だけ書き、できるだけメモを見ないで話せるようにしたい。

「表現、共有（話すこと）」については、伝えたいことを相手に伝えるために、声の大きさや速さについて工夫したい。伝えたい相手の人数などを考慮して声の大きさを変えたり、大事なところは特に大きな声でゆっくり話したりといった工夫ができるとうよい。

「構造の内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」については、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くようにしたい。そのために、聞くときに大切にしたいことをまとめた「ききかためいじん」を確認したり、発表の際に聞き取りカードで簡単な評価をしたりすることで、最後まで集中して聞けるようにする。また、話の内容に対して、自分の経験や知っていることと比較しながら、質問や感想も言えるようにしたいと考える。

（2）本単元の特徴

本教材は、夏休み中の楽しかった経験を思い出し、話題にすることによって、互いの理解を深めることを意図したものである。夏休みの出来事から何を話すかを考えて話題を選び、話の順序を考えながら、「です」「ます」など、丁寧な言葉を使って話すことができるようにする。P100の挿絵は、夏休みに経験しそうなことの例である。話す話題はなにも特別な事柄でなくてよい。聞き手

である友だちが分かってくれるかどうか、大事なことは何かを考えて、順序（3～4文程度でよい）を意識して話せるように指導したい。

また、話し方で効果があるのは実物を持たせることである。教科書では、夏休みに作った工作を持って話す児童の例を挙げている。今回は、書いてきた絵日記、思い出の品や写真などを発表の後に見せたり、簡単に説明したりすることで、聞き手の理解を深め、質問も引き出しやすくした。夏休みの出来事を話題にしているのだから、聞き手が似たような経験をしていることも考えられる。そこからもっと知りたいことを尋ねたり、自分の体験と重ね合わせたりして話題が広がるであろう。また、上手に質問をしてあげることで、お話の詳細を引き出すことができ、話し手に「話してよかった。」という気持ちをもたせることができる。

本単元は、だれもが夏休みの生活の中で経験したり見つけたりできる話題を取り上げている。夏休みも過ぎて学級にも慣れ、児童は自分が「したこと、見たこと、聞いたこと」を教師や友達に伝えるようになってくる。このような時期の児童に、伝える内容や場、方法などを学習させる教材を設定することは、話すこと・聞くことの音声言語指導の基礎を養ううえできわめて重要である。児童の「誰かに何かを伝えたい」という思いを大切に、誰でもが自分の言葉で臆せずに話すことのできる場を設定したい。

5. 指導計画と評価計画

(1) 評価規準

国語への関心・意欲 ・態度	話す・聞く	書く	言語についての知識 ・理解・技能
①夏休みに経験したことをみんなに知らせる学習に興味をもって取り組もうとしている。(関)	①夏休みの出来事から題材を決めている。 (1)ア ②友達に伝わるように、話す事柄を順序立てて丁寧な言葉で話している。(1)イ ③話し手の方を見ながら、興味を持って聞いている。(1)エ		①「です」「ます」を用いて丁寧な言葉で話している。(1)イ(キ)

(2) 指導と評価の計画

	時	目標	主な学習活動	評価規準
第一 次	1 ・ 2	・経験の中からみんなに話したいことを選び、話の順序を考えることができる。	・今までのスピーチの経験を思い出す。 ・教科書P100の挿絵や絵日記から夏休みの出来事を思い出し、題材を決める。 ・教科書のモデルや付録のCDを聞いて、話し方を知る。 ・簡単なスピーチメモを作る。	【関】夏休みに経験したことをみんなに知らせることに興味をもって取り組もうとしている。 (観察・ワークシート) 【話・聞】夏休みの出来事から話す内容を決めている。 (ワークシート)
	3	・聞くときに大切なこ	・教科書P101や「ききか	【話・聞】話し方・聞

第二次		<p>とや、質問のしかたを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すときに大切なことを理解することができる。 	<p>ためいじん」から聞くときのマナーを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すときに大切にしたい「はなしかためいじん」の確認もする。 ・ペアで話したり聞いたりする練習をし、感想や質問を返すと、もっとよく分かることに気がつく。 	<p>き方の大事なことや質問のしかたについて理解している。</p> <p>(発言・練習)</p>
第三次	<p>1 本時</p> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに経験したことについて、順序立てて丁寧な言葉で話すことができる。 ・話す友達のほうを見て、興味をもって聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会のやり方を確認する。 ・全員で一つの輪になってお話を会をする。 ・発表会の振り返りをする。 	<p>【話・聞】 3～4文程度で順序立てて丁寧な言葉で話している。</p> <p>(発表)</p> <p>【話・聞】 話し手の方を見て、興味をもって聞いている。(観察)</p>

6. 本時の指導

- (1) 日 時 令和元年8月28日(水)
- (2) 対 象 甲州市立井尻小学校 第1学年 児童11名
- (3) 目 標 夏休みに経験したことについて、順序立てて丁寧な言葉で話したり、話す友達の方を見て、興味をもって聞いたりすることができる。
- (4) 授業の展開

展開	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
導入 5分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>なつやすみのおもいではっぴょうかいをして、はなしかた・ききかためいじんになろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、夏休みの思い出を順序に気をつけて発表したり、友達の話をよく聞いたりすることを明示する。 ・「ききかためいじん」「はなしかたためいじん」を確認する。 	
展	<p>2 「夏休みの思い出発表会」をする。</p> <p>【話す人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビの横へ移動し、発表する。 ・発表後に、書いてきた絵日記や写真、思い出の品などを見 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの顔が見え、リラックスした雰囲気の中でできるように座席を円の形にする。 ・発表の内容がより伝わりやすくなるよう、絵日記や写真などを 	話・聞②(発表)

<p>開</p> <p>35分</p>	<p>せたり，説明をしたりする。</p> <p>・出された質問に答える。</p> <p>【聞く人】</p> <p>・発表が終わったら，聞き取りカードに，評価（◎，○）を記入する。</p> <p>・聞きたいことを質問したり，発表についての感想を言ったりする。</p> <p>（これを5人繰り返す）</p>	<p>テレビに映したり，思い出の品などの実物を見せたりする。</p> <p>・興味をもって最後まで話が聞けるように，聞き終わったら「聞き取りカード」に話し方名人についての評価（◎，○）を記入する。</p> <p>・質問や感想が，同じ児童ばかりにならないよう工夫をする。</p> <p>・質問や感想の際にも，「～ですか」や「～だと思いました」などの丁寧な言葉を使えるようにする。</p>	<p>話・聞③（観察）</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>3 発表会の振り返りをする。</p> <p>・めあてである「はなしかためいじん」や「ききかためいじん」について自己評価する。</p> <p>・誰が「はなしかためいじん」だったか発表する。</p> <p>4 次時の連絡をする。</p>	<p>・児童の発表のよい面に注目した意見の交流をする。</p> <p>・次時は，残りの6人が発表することを伝える。</p>	

(5) 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く
<p>①夏休みに経験したことをみんなに知らせたり，友達の話の聞いたりすることに興味をもって取り組もうとしている。</p>	<p>②友達に伝わるように，3～4文程度で順序立てて，丁寧な言葉で話している。（発表）</p> <p>③話し手の方を見ながら，興味を持って聞いている。（観察）</p>

充分満足できる	おおむね満足できる	支援を必要とする児童への手立て
<p>3～4文を順序立てて，丁寧な言葉でスムーズに話したり，話し手の顔を見て聞き，話した内容に合った質問や感想を多く言ったりしている。</p>	<p>3～4文を順序立てて，丁寧な言葉で話したり，話し手の顔を見て聞き，話した内容に合った質問や感想を言ったりしている。</p>	<p>話すことに不安を感じる児童には，発表メモを見ながら発表させる。聞くことが苦手な児童には，絵日記や写真，思い出の品についての質問を考えるように促す。</p>

7 指導の実際

【夏休み前】

- ・児童には、夏休みが終わったら思い出を1つ発表することを伝えておいた。また、保護者にはお便りを通して、絵日記に書いた話題について、写真や資料、思い出の品などを残しておいてほしいことを伝えておいた。

【第1次】

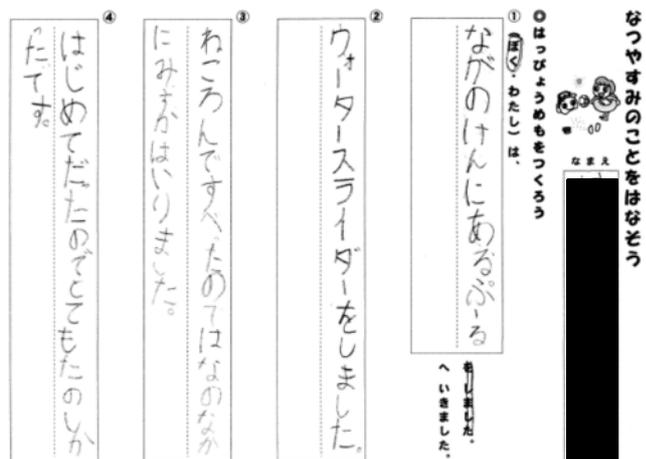
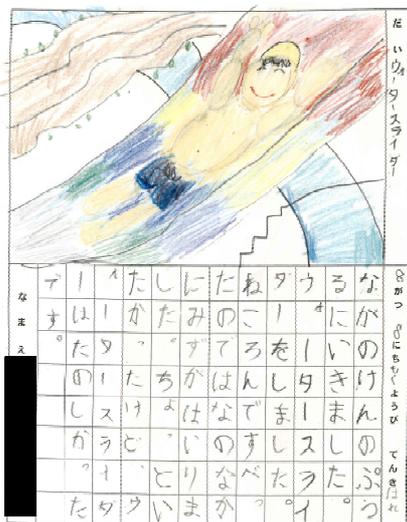
1, 2時間目 夏休みに経験したことの中からみんなに話したいことを選び、話の順序を考えてメモを書く活動

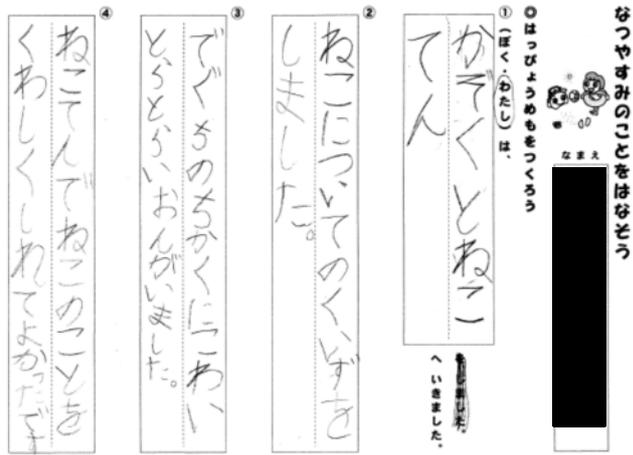
- ・まず、「なつやすみの ことを はなそう」という単元をするにあたって、今までのスピーチの経験を思い出しながら、教科書の挿絵のように夏休みの出来事をみんなの前で発表することを伝えた。また、実際の発表の様子を知るために、教科書付録のCDを聞いて、話し方や聞き方、質問や感想の言い方に対するイメージを持たせた。
- ・絵日記2枚のうち、どちらを発表するか決め、絵日記の文章を見ながら、簡単な発表メモを書いた。

○楽しかった夏休みが終わったばかりなので、話したいという気持ちが高まっている児童が多かった。教科書付録のCDを聞き、どんなことに気づいたか発表させると「質問を言っている」や「話している途中で他の人が話したら注意されていた」などやり方やきまりなどにも気づいている児童がいた。

○絵日記があったので、何を発表するかはすぐに決められた。発表メモについては、当初話したいことの大筋だけ書いて、話すときにはそれを膨らましながら話せるようにしたいと思っていたが、児童の実態をみて、やはり話す内容の全部を発表原稿として書くことにした。よって、ほとんどの児童が絵日記の文章をそのまま写していた。

★本クラスには、みんなの前で発表することが苦手な児童（A児）がいる。普段は、言いたいことをポンポン言い、他の子とトラブルになったり、クラスが暗い雰囲気になったりすることがある。しかし、改まった場での発表となると「無理。」「やらない。」の一点張りで、できないことが多かった。1学期の単元「たからものをおしえよう」では、発表するはずだった宝物を持って帰ってしまい、メモも書けず、結局やらずに終わってしまった。今回も、準備の段階から「俺は、絶対発表しない」と言っていた。しかし、家庭から写真を持ってきたり、発表メモも嫌々ながらも教師と一緒に書いたりしていたので、言葉とは反対に心の中では、「話したい」という気持ちがあるのではないかと思った。

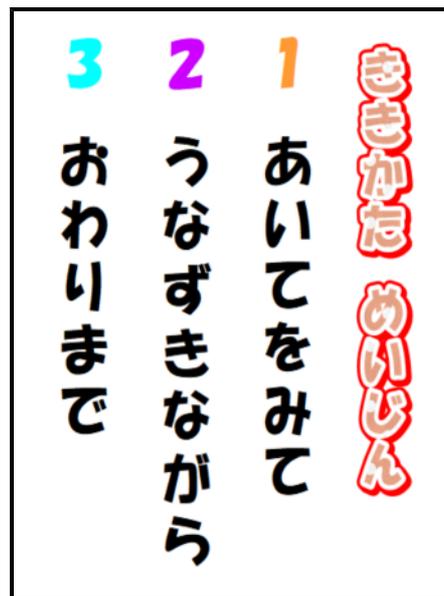
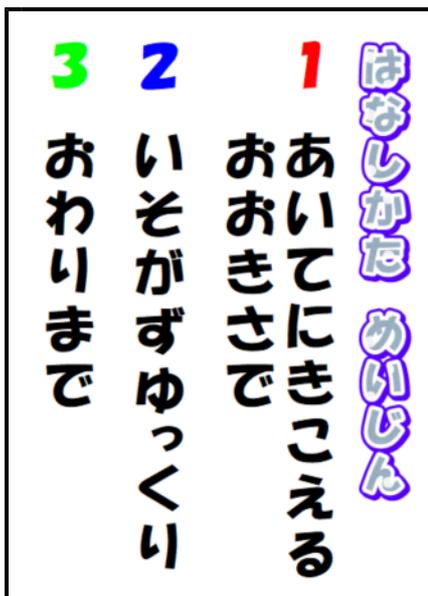




第2次

3時間目 聞くときや、話すときに大切なことを理解した上で、発表の練習をする活動。

- ・「ききかためいじん」から聞くときのマナーを考え、話すときに大切にしたい「はなしかためいじん」についても確認したりした。
- ・今回は「はなしかためいじん」の中にもあるように、「相手を見て話す」ことを目標にしたので、話す内容をある程度は覚えないとできない。よって、宿題に出して何度も練習し、お家の人に聞いてもらうようにした。また、授業の中でも、ペアでお互いに話したり聞いたりする練習を1回だけ行い、感想や質問を返すと、もっとよく分かることに気がつけるようにした。
- 「ききかためいじん」や「はなしかためいじん」については、一つ一つの事柄については、これまでも指導してきたが、「めいじん」という言葉で括って紹介するのは初めてだった。これを達成すれば「めいじん」になれるということで、児童の中にも一つの目標として位置づけられたと感じた。
- 紹介文が4つの短い文だとしても、児童にとっては覚えることは難しいのではと思っていたが、ペアで練習した際には、比較的良好く覚えていた様子が見られた。



第3次

1時間目 夏休みの思い出について、順序立てて丁寧な言葉で話したり、話す友達のほうを見て、興味をもって聞いたりする活動(本時)

(授業研究後の研究討議で出された意見)

○たくさんの参観者がいる中で、何も見ないで、生き生きと自分の言葉で発表できる児童が多く感心した。1年生でこれだけ話ができれば十分だと思う。

○発表に対する質問や意見が多く出たのは、やはり絵日記や写真をテレビに映し出したことが効果的に働いたと思われる。写真や資料を見ることで、思い出を共有できたり、自分の思い出と重ねたりすることができ、質問や感想が言いやすくなったと感じる。ICTを活用することで、児童の話したい気持ちや聞きたい気持ちを高めることができた。

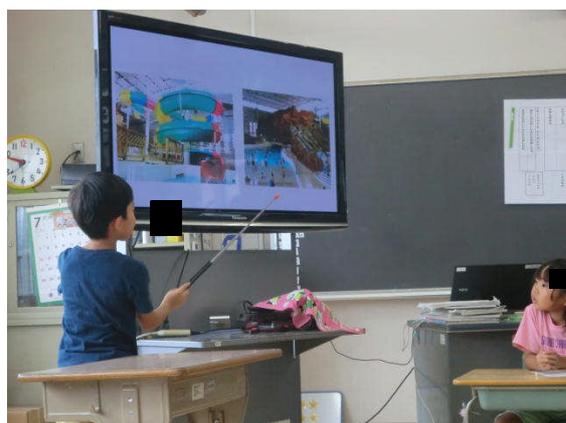
○発表メモに、話す内容を全文書いてしまうことについては、1年生という発達段階からすると必要なのではという意見が多かった。1年生のこの時期は、文を書くことだけでも一苦労だが、絵日記を参考に書くことができたので、短時間でまとめることができてよかったと思う。

△めあてである「はなしかた・ききかためいじんになろう」という意識が低かった。これが「はなしかためいじん」

「ききかためいじん」だというイメージを上手く持たせられなかったことが一因だと考える。これは本単元だけで実現できるものではなく、日々の積み重ねが必要である。今後は、目指す姿を子ども達と共有しながら継続して取り組んでいきたい。

△本時では「聞き取りカード」を使い、友達の発表を簡単に評価する活動を行った。これは、友達の発表を最後までしっかり聞くために、聞く側の意識を高めるために行ったが、1年生にはとても難しいものだった。友達の発表内容が何だったのかを、項目で選択することは、思った以上に難しく、正しく選択できていない児童もいた。また、「はなしかためいじん」だったかという評価についても、名人になるポイントが設定しきれていなかったため、個人的な思いなどで付けてしまっている児童もいたことである。

△最後の発表の振り返りについても、「はなしかためいじんになれましたか」「ききかためいじんになれましたか」という評価項目よりも、具体的な項目の方が付けやすかったのではないかと思う。自分の話し方を具体的に評価することで、次に生かせる評価になるのではないだろうか。



「なつやすみのことをはなそう」ききとりカード

○ともだちのはなしをきいて、ちえつくしよう。

なまえ	はなしかた	はなしかためいじん
	こと	

○がくゆうをふりかえろう。

はなしかためいじんになれましたか。

ききかためいじんになれましたか。

「ちえつく」

○よい

○ふつう

「はなしかたこと」

1 ぶうる

2 いきもの

3 はなび

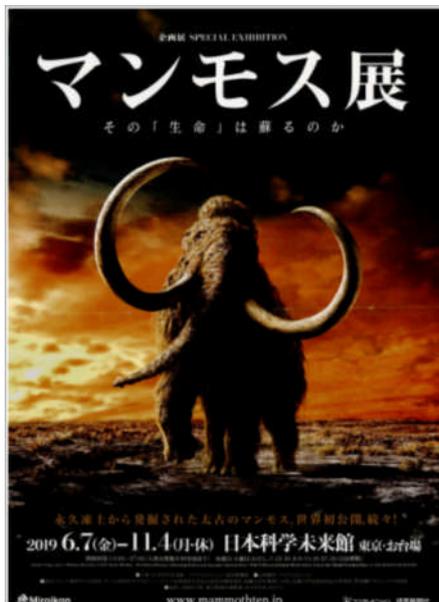
4 うみ

5 はくぶつかん

6 おてら

7 そのほか

《児童が持参した写真や資料》



2時間目 夏休みの思い出について、順序立てて丁寧な言葉で話したり、話す友達のほうを見て、興味をもって聞いたりする活動

○昨日発表していない児童は「早く発表したい」という思いがあり、本時をとっても楽しみにしていた。また、2時間目ということもあり、前時のことを思い出しながらできたので、あまり緊張せずに発表したり、聞いたりすることができていた。

△本時も「ききかためいじん」「はなしかためいじん」を確認してから行った。授業の中でも、何

回か声をかけたり、振り返ったりしたので、意識付けはできたと思う。しかし、2時間目に発表を行った児童は、やはり発表することに苦手意識のある児童が多かったので、明らかに声が小さくなったり、早口になったりした場面もあった。

△質問や感想については、担任の方で指名しながら行ったが、やはり手が上がる児童には偏りがあったように感じる。質問の内容については、自分の経験や知っていることと比べながら質問する児童も増えてきたので、やはりこのような経験を積み重ねることが大事だと思った。

★A児は昨日の研究授業では、発表の順番ではなかったため、他の児童の発表を聞いていた。やはり、聞くこともあまり好きではないので、自分の言いたいことはポンポン言うが、興味がなくなるとネガティブな発言をしたり、手いたずらをしたりしていることが多かった。しかし、A児の発表する番になると、何も言わなくても発表する机の前に来た。指し棒を持っていたが、もじもじしてなかなか始められなかった。そのうち「絵日記は見せないで。」というので、先に持ってきたザリガニ釣りの写真をテレビに映して、質問や感想から行った。みんなから「自分だけで釣ったんですか」や「Aくんは何匹釣ったんですか」などの質問が出され、それには得意気に答えていた。みんなから「すごい」などの声があがり、自分から写真の説明をする場面も見られた。慣れてきた様子なので「発表してみる。」と声をかけたが、やはり固まった。そこで、「じゃあ、先生と一緒に発表しよう」と言い、担任がメモを読み上げると、小さな声で一緒に話し始めた。途中から、私が読むのをやめても、自分だけで続けることができた。終わった後、みんなから拍手をもらい嬉しそうにしていた。自分の中でも、「発表できた」ということが、少し自信につながったようである。みんなの前で「話すこと」が苦手な児童を、前向きに取り組ませることは、とても難しい。しかし、本人の中に「話したい」という気持ちがあることと、「話す」きっかけになるもの（今回は写真）があれば、少し前進するのではないかと感じた実践であった。

8 成果と課題

○夏休み中も保護者に協力していただき、写真や資料を用意していただけたことは、目標を達成する上で大変有効だった。また、たくさんある思い出の中から選ぶのではなく、絵日記から選ぶだけだったので時間短縮にもつながった。

○子どもたちは、予想以上に発表内容を頭に入れ、何も見ないで一生懸命発表していた。途中、止まってしまったり、声が小さくなってしまったり、言うことを飛ばしてしまった児童もいたが、「みんなに教えた」という気持ちをもって、1年生なりに発表することができた。今後もさまざまな場面で発表する機会があるが、この「みんなに伝えたい」という気持ちをいかに持たせるか、そのためにどんな手立て（物や場など）を工夫するかが重要になってくると思う。

○児童の質問や感想はとても面白いものだった。特に、同じ経験をしている児童は、自分の経験と重ねて話していた。海へ行った児童の話聞き、写真を見た瞬間「わー、すごくきれいな海。」や「僕の行った海は、もっと汚かった。いいなあ。」などとつぶやいている様子も見られた。また山梨県立博物館の「ねこ展」の話をした児童には、「私は、ねこ展で〇〇をしたんですが、～さんはしましたか。」など行った人にしか分からない話題で質問していた。人の話を聞くということは、常に自分の考えや経験と比べながら聞くということの素地が身についてきたと感じた。

△児童が聞いた話題を総括するということは、1年生にとっては難しいことを実感した。聞き取りカードを使用するなら、評価項目も含めて、もう少し分かりやすいものにするなどの改善が必要である。

△一人の児童から出た発言を広げ、人事から自分事につなげていく教師の技術は、まだまだ不十分である。児童の発言のどの部分を、どんなふうに問い返し、つなげていくかについては、今後も研究を深めていきたい。